

平成25年度 見附市国語部 活動報告

部長 相澤 将貴

1 研究の目的

新学習指導要領では、思考力・表現力・判断力の育成が中核に掲げられている。国語科で育む表現力について考え、表現力を育てるための教材開発や言語活動の在り方について探る。

2 研究の概要

(1) 研修内容

○講話と演習

「小・中学校を通じ、各領域でバランスの取れた児童生徒の育成・特に表現領域に重点を置いて」

○講師 新潟大学教育学部准教授 佐藤佐敏 様

(2) 日時

平成25年8月21日

(3) 会場

見附市立見附小学校会議室

3 研究の実際

(1) 講義「根拠」と「理由」の違い

教科書本文から探するのが「根拠」、「もし～なら～となる」のが「理由」となる。「根拠」と「理由」どちらも使って、話すことができるようにしていくことが表現力や思考力を育てることにつながる。

(2) 演習『お手紙』、『扇の的』

「根拠」と「理由」を子どもたちが使って話すことができる具体的な手立てとして「発問を精選すること」と「答えを選択式で与えること」をご指導いただいた。

例えば、『お手紙』であれば、「がまくんが一番うれしかったのはいつですか？」と発問し、

①かえるくんが「だって、ぼくがきみにお手紙出したんだもの」と言ったところ

②かえるくんから、お手紙の内容を聞いたところ

③二人で手紙がくるのを待っていたところ

④かたつむりくんから手紙が届いたところ

この4つの選択肢を与え、「根拠」と「理由」を基にしながら考え、話し合いができるようにすることを演習で学んだ。

4 成果と課題

表現力・思考力を育てるための具体的な手立てについて、講義と演習を通じて学ぶことができた。参加者からは、日々の授業に取り入れて、国語指導の工夫・改善を図っていきたいという感想が多く集まった。